

# 佑啓

ゆ う け い

発 行 者  
社会福祉法人佑啓会  
理事長 里見 吉英  
〒290-0265  
千葉県市原市今富  
1110-1  
TEL 0436-36-7611  
FAX 0436-36-7612  
編集者 広報委員会

## 紡ぐ日々

### 行場貴子



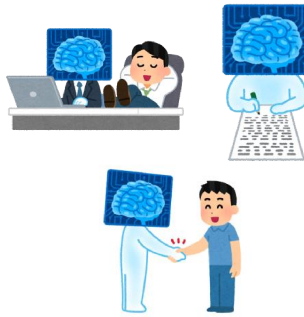
「あつという間」の14年間。  
多くの方と出会い、支えられました。

二月を迎えて間もないある日、全ては、このひと言で始まりました。「ショチョウ、三月発行の『佑啓』の第一面をお願い致します」「えっ、えっ、ついこの前書いたと思うけど・・・」「いいえ、四年前のオリンピックの年です」と広報委員で佑啓担当者のつれない返答。それでもめげずに「では、東京オリンピック、パラリンピックが終わったあたりでいかがでしょうか？」と抵抗してみました。が、「いいえ、すでに広報委員会で決定しましたので・・・」と全く情容赦ないお言葉。でもでも「と何とか免れる方法を考えながら、胸の内では(そうか、もう四年も経っているのか)と月日の経つ早さに驚いていました。妙に納得し、弱腰になりつつある私の様子を見逃さず「ではよろしくお願い致します」といつもはやさしい担当者最後の通達にとどめをさされてしまいました。立ち春を迎え、春を待つ浮き

に逆戻りの様な感じになりました。月日の経つ早さは、日々実感しています。月曜日、利用者さんとの朝礼で「新しい一週間が始まりました。今週も頑張ってくださいませよう」と投げかけ、金曜日の終礼には「一週間お疲れ様でした。素敵な週末、楽しいお休みを過ごしましょう」と締めくくります。一日一日はさほど早く感じませんが、気が付くとあつという間の一週間、そしてあつという間の一か月、一年が過ぎていきます。時間は誰にも平等に流れています。同じ時間ですが、楽しい時間は早く感じます。反対につらく

苦しい時間は長く感じます。ご縁があつて小石川福祉作業所で働かせて頂いて十四年が経とうとしています。利用者、保護者の皆様はもとより沢山の方達と出会い支えられて本当に「あつという間」のかけがえのない十四年間です。鴨長明の方丈記序章に「行く川の流れば絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりにたるとためしなし」という一節があります。直訳は、流れて行く川の流れば絶えることなく、それでいてもとの水と同じものが流れているのではない。よどみに浮かぶ水の泡は、一方では消え、他方ではできて、いつまでも同じ状態でいるためしはない・・・更に人や世の中も同じようなものであると続いています。確かに、この十四年間同じことを繰り返しているが、同じことは、ひとつもなく、だからこそおもしろく、飽きることもない味わい深い毎日になっているように思います。

十年ひと昔という言葉は、もはや死語になっていますが科学や医学面の進歩はめざましいものがあります。特にAI分野は日進月歩で発展しています。AI寿司店、AI居酒屋、AIパーラー、更には就職の面接もAIで行う企業も出てきているようです。では、我々が身を置いている福祉の世界はどうでしょうか。以前、法人内研修で毎日新聞社論説



解説委員の野澤和弘氏の講演の中で、「どんなに人工知能が発達しても福祉の世界で支援を担うことはできない。だからこそ、支援者として誇りを持つて職務に当たってほしい」と述べられ、心強い思いをし、たことを思い出します。人間誰もが持っている経験や勘といったものは、AIでは越えることができません。相手との間に流れる情感・心情・信頼など人工知能では推し計ることができないものを我々人間は持ち合わせています。そして人との関係性で成り立っているのが、福祉の仕事です。ですから、豊かな心、寛大な精神、協調性、公平性、社会性などなど知識や技術だけではないものが支援者に必要であり、求められるものだと思います。またひとりではできないことでもみんな力で力を合わせて成し遂げる喜びはこの仕事の醍醐味ではないでしょうか。



ある年の一泊旅行のこと。立ち寄ったドライブインで土産を選んでいる利用者さんに対して、バスの出発時間が迫っている為、「早くして、早く決めて下さい」と二つの土産を持って選ばせようとしたところ、彼女は「うーん、ゆっくり迷いたい。ゆっくり迷わせて」と叫びました。私自身に気持ちのゆとりがなかった為に、ワクワクしながらお土産を選ぶ楽しい時間を彼女から奪ってしまうところでした。それ以降、この名言「ゆっくり迷う」ことを、私自身の信条のひとつに加え、壁に当たった時など乗り越えることに役立てています。

冬に逆戻りした気持ちで書き連ねましたが、ここへ来て新型コロナウイルスの感染拡大という、気持ちが更に沈むような事態が生じています。都内、区内のイベントが次々と中止となる中、作業所においても年度最後の行事、食事外出を中止にさせてもらいました。皆さんが楽しみにしている行事です。とても心苦しい選択でしたが、利用者、保護者の皆様のご理解、ご協力を頂き有難く感謝しております。どこまで拡大するのか、終息が見えない状況ですが、(二月末日現在)利用者さんとの他愛のないやりとりで癒され、救われている毎日は。前述で科学医学の進歩はめざましいものがあると申し上げましたが、新型コロナウイルスの様な自然科学の世界はまだ未知の分野の様です。世界各地で感染拡大が止まらない事態に不安が増す一方ですが、こういう時こそ、確かに情報を得ながら、いたずらに恐れることなく理性を持って、品格を持って乗り越えていかなければならないと思います。

春は出会いと別れが交錯する季節。四月からは令和二年度が始まります。これから毎日があつという間に感じられる様、利用者の皆様と丁寧に日々を紡いでまいりたいと思います。(小石川福祉作業所 施設長)

## 娘が成人を迎えて

松嶋 恵江

新年を迎え、我が家にビックイベ  
ントがやってきました。ふる里学舎  
さんで行われる「新年会・新成人を  
祝う会」です。寒い日が続く中お天  
気にとも恵まれ一月十九日に千葉の  
インデオホテルズにて開催された  
会は結婚披露宴が行われるような会  
場で円卓がずらりと並ぶ広間にて行  
われました。参加される人数の多さ  
や会場の豪華さに圧倒されたのか二  
十歳の娘も緊張しているようで少し  
落ち着きない様子も見せていました  
が、日頃お世話になっている親しい  
支援員さん達に代わる代わる「おめ  
でとー！」と声を掛けられ嬉しそ  
うな、少し誇らしそうな、そんな表情  
を見せながら次第にリラククスして  
いきました。会が始まると新成人は  
ステージに上がります。そしてお祝  
いの言葉や花束を頂き、温かい拍手  
に包まれますが和やかな雰囲気では  
進行しながらスタッフの皆さんが  
新成人一人ひとりのDVDを作った  
下さっており、スライドショーとし  
て上映されました。それを観ながら  
私は改めて娘が生まれた二十年前を  
振り返っていました。



令和元年度 成人式新年会

お腹の子は待望の女の子。四月に生まれる予定の娘に季節を感じさせる可愛い名前を付けようと夫婦で決めていました。赤ちゃんに会えるそ

の日のを楽しみにしていた私達ですが誕生後娘は発熱し、様子も気になるという事でこれも病院に搬送されてしまいます。一カ月程で退院となるのですが「どうも様子が気になる」と。その事で定期的な通院が始まりました。そして十二月、クリスマスが近いある日私はお医者様に言われます「娘さんには先天的な障害があります」と。街中がイルミネーションに彩られ、華やかで賑やかで楽しそうな雰囲気の中私はひどく落ち込みひどく暗い気持ちでいました。私に育ててもらえるのだろうか。と。けれどお腹は空きます。ご飯を食べて「今日はお病院に連れて行かなくちゃ」と寝て「今日は療育の日だ」、ご飯を食べ「今日は訓練だ」寝て：「ええ」と今日は何、何の日だったと毎日がとても忙しく実際は悩んでいる暇も無い程時間があっという間に過ぎた上兄もいますので当時は息子の幼稚園の行事や送り迎え、日が暮れるまでの外遊びなどで私はヘトヘトでした。そんな中私はふと気付きました「子育てに健常児も障害児もないんだなあ」と。健常児の兄は何の問題も無く大きくなってはいくかと言われと違えます。やはり親は悩みます。その子に起きる様々な出来事に対して「どうしたらいいんだろう」「どうしたらいい子に育ってくれるんだろう」と。障害ある子、無い子、内気な子、元気な子、勉強出来る子、出来ない子、どんな子がやってくるのもその子の幸せを願って親つて悩むんだなあ、きつと私の親も。：。そう気付いた時から私の心はとても軽くなりました。



そんな時にふる里学舎さんにご縁  
があり利用が始まります。娘は児童  
デイサービス、日中一時、短期入所、

作業実習。そして季節毎に行われる様々な行事を通して少しずつ大きくなりました。十年以上のお付き合いとなり今に至ります。娘は、学舎さんは勿論、アネッサ、五井福祉作業所など色々な場所での利用を経験しましたが私はどこに行っても元スタッフのみなさんが明るく優しく気一杯な事に驚きました。疲れも暗い気持ちも一気に吹っ飛びます。そんなみなさんが作り出す雰囲気やチームワークの良さが利用者である私達にも伝わり、安心感や信頼感を与えてくれているんだらうと私は日々感じています。



二〇二〇年、今年はオリンピックイヤーです。パラリンピックも開催され、様々な選手達がそれぞれの舞台上で活躍されます。選手達にどんな出来事が起こり、どんな縁あつてここに立つのだろう、と思ひ馳せると自然に涙が溢れます。あなたはどんな舞台上に立っていますか。誰と立っていますか。私は娘と立っています。そして仲良し手を取り踊っています。くるくるくる回る回ります。娘と関わる全ての人達一人ひとりを巻き込みながら。最初は戸惑いながら踊る人達もだんだん楽しく愉快になって笑います。気付けば笑顔溢れる人達です。舞台はぎゅぎゅうです。私はそれを見て可笑しくて可笑しくて。そして娘に言います。ステキな舞台だねここに連れてきてくれてありがとう笑いながらちよっぴり泣きながらくるくるくる回る踊ります。

一年間を終えて

子どもたちに学び、

奥山日和

佑啓会の面接を受けて二年、入社してそよげキッズに配属されてから一年が経とうとしています。インターンシップで二月にふる里学舎を見学させていただいた際に、利用者の方々が施設内でのびのびとしている姿を見て衝撃を受けたことが、今でも鮮明に思い出すことができます。自身の就きたいと思う職場がなかなか見つからず、どここの施設に入っても同じなのではないかという気持ちになりました。この思いは、他の施設と



てわくわくしました。その後、無事ご縁をいただき、佐啓会に入社してからは、千葉県という自分にとって馴染みの無かった新たな土地での一人暮らしや、学生時代と違った生活習慣など慣れない事ばかりで不安な日々でした。

四月初旬、児童発達支援の年少児クラスは初めて家族から離れて過ごすお子さんたちと、同じく新社会人としてクラスの担当の一人となった私というよく言えばフレッシュなグループでの日々がスタートしました（きつと同じクラスの先輩職員は大变だったと思います）。大学では保育

について勉強してきましたが、改めて一人ひとりによって対応に違いがあるのももちろんのこと、昨日良かったことが今日は上手くいかないなど、その日学んだことを毎日繰り返せばいいというわけではない大変さを痛感しています。お子さんたちが帰ったあとは様々な職員の視点からお子さんに対しての日々の対応を検証して、明日からどのような支援をしていけばいいのかを話し合っています。学生時代の保育実習などでも集団生活の中で一人ひとりと関わり視点を向けていくことの難しさを強く感じていました。でも様々な職員との話し合いを続けてきたこの一年で、大学時代の思いが少し解消されていることに気づき、大変さの中にも自分自身の仕事に対するやりがいを感じられるようになりました。

関わってきた年少児クラスのお子さんたちも一年が経ち、そろそろギッシンにも慣れてきて、もうすぐ次年度に移ろうとしています。この一年間を振り返ると、お子さんたちが日々ぐんぐん成長しているのを感じます。私はという一年が経った今でも毎日が勉強の繰り返しです。ですがそんな私に先輩方はやさしく、時に厳しく指導してくださり、先輩方の仕事に対する熱意や愛情を感じ、もっと頑張らなくては、もっとこのお子さんたちのために私ができることがあるのではないかと感じています。成長し変わっていくお子さんに合わせて、私も一緒に成長できたらと思うこの頃です。

また、児童発達支援のお子さんが帰った後は放課後等デイサービスのお子さんたちがやってきます。現在小学生や中学生のお子さんを通して、お兄さんやお姉さんに対してその年齢に相応しい対応の仕方を考えなくてはならず、児童発達支援とは違った大変さがあります。放課後等デイサービスの担当も兼ねていたものの、自分自身の支援に自信が持てず、先輩方の動きを見て真似すること

とばかりで精一杯な一年でした。ですが短い時間であつてもスケジュールに沿つて活動を行ななければいけない時間もあり、いつまでも先輩方の背中を追つているだけでなく、自信をもつて行えるようにならなくてはならないと感じる日々です。臨機応変に対応出来るようにクラス全体を見ながら一人ひとりに関わつていけたらと思います。



日々、勉強の繰り返し。  
一人前を目指して！！

間もなく次年度になり、また新たなお子さんが入ってきます。まだまだ上手くいかないことも多く、一人前とは程遠いですが、去年よりも少し成長した自分でお子さんたちを迎えられたいと思います。

(そよかぜキッズ 支援員)

## 編集後記

もうすぐ一年の終わり。年度末に差し掛かろうとした矢先にコロナウイルスの感染拡大……。各事業所の予定も見合わせになることが多くなるのと共に、連日の報道に氣負けてしまいましたが、啓啓会は明るく、元気に、さわやかに、「この難局も利用者の方々と共に、職員も一丸となって乗り越えたい」と思っています。一日も早い終息を願いつつ、機関紙「啓啓」を皆様のもとへお届けします。

(支援員 五十嵐 祐貴)